

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300119		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家帝塚山(1)		
所在地	大阪市阿倍野区帝塚山1丁目10番地7		
自己評価作成日	2019.3.16	評価結果市町村受理日	令和元年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「たのしい家」で「たのしく暮らす」を目指しています。
地域のボランティアの方に来て頂いたり、地域の行事に参加したり、施設内での行事に地域の方を招待したり、日々の暮らしの中で変化や楽しみが持てるようにご利用者・職員で創意工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、日々散歩や馴染みの商店街へ買い物に出掛けたり、季節に応じて初詣や花見、紅葉狩り、動物園等への外出行事を実施し、家族へも参加を呼び掛けて飲食店で忘年会を開催する等、外出の機会を多く作るように努めています。自治会に加入し回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て利用者と地域の盆踊りや近隣の小学校の運動会を観に出掛けています。また事業所での夏祭りは夕涼み会として近隣の方を招いたり、併設の施設と合同でボランティアの訪問によりバルーンアートや楽器の演奏を楽しむ等、地域との交流を深めることで利用者が楽しく暮らせる事業所作りに繋がっています。運営推進会議には多数の家族の参加を得て活発に意見交換を行い、事業所への理解や運営に活かしながら利用者へのサービスの向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全員で理念を作り、理念を共有するために玄関に掲示し、朝の申し送りの時に読み合わせを行っている	職員間で話し合い作成した施設全体の独自の理念を玄関に掲示すると共に、朝礼で法人のコンプライアンスマニュアルも含め順番に読み合わせをして意識付けを行っています。利用者一人ひとりの思いに添った支援が出来るかカンファレンスで振り返り、地域の方との交流を深めることで理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩、買物なども地域のお店を使っている。運営推進会議や回覧板、地域在住の職員からの情報を頂き、参加できる事や行事には参加している。	自治会に加入し回覧板や運営推進会議等で地域の情報を得て盆踊りや区のイベント等に参加したり、近隣の小学校の文化祭や運動会を観に出掛けています。事業所の夏祭りは夕涼み会として地域の方を招き、また小学生の体験学習で見学を受入れたり、併設の事業所と合同でボランティアの訪問によるバルーンアートや楽器の演奏を楽しむ等、積極的に地域の方々と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	帝塚山中町会での初めての高齢者施設なので地域への交流や貢献できる事を検討中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催、包括、町会長、ご家族様7組程度ご参加頂き、日常生活や行事や身体拘束適正化委員会等をやっている	会議は2か月に1回家族や町内会副会長、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、利用者の状況の伝達や活動の報告、行事の連絡、事故報告等を行い意見交換をしています。質問を受けて普段の様子や食事介助等の支援の方法を説明すると共に地域の行事の情報をもらい利用者に参加する等、会議を事業所の理解やサービスの向上に活かすように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料・議事録を提出しご意見を頂いている	運営上の手続きや報告、相談等で行政の窓口へ出向いています。事業所連絡会に参加し市職員の出席することもあり情報や意見交換をし、行政との協力関係の構築に努めています。また、行政から研修の案内が届き、可能なものには参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とフロアの施錠は行っているが、日々施錠しない為にはどうしたらいいか職員同士で考え話し合っている。法人内でGH会議などで身体拘束をしている事例を検討検証をしている	年2回事業所で身体拘束に関する研修を実施し職員は知識を身に付けています。言葉かけによる制止がみられた時にはその都度注意し、家族の了解を得てセンサーマットを使用している方がいますが必要性は毎月検討しています。また、玄関やフロア入口は施錠していますが外出希望の利用者には楽しめるよう気分転換を図ったり、花壇や散歩に出掛けて閉塞感の無い暮らしへの支援に努めています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修教育計画に沿って、年2回の研修を実地している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修教育計画に沿って、受講している。 後見人制度を利用されているご利用者もおられる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族に入居前に重要事項などを充分説明し契約をして頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人で年1回顧客満足度調査を実地している 運営推進会議で意見を頂いたり、面会時に直接ご家族から意見を頂いた事を反映している	利用者の意見や要望は日々の関わり合いの中で聞くように努め、個別で買い物に出掛けたり月2回のリクエスト食の時に希望する食事を提供する等意見や希望をサービスに活かしています。毎月利用者の普段の様子の写真と手紙を家族に送付し伝え、年1回法人が実施するアンケートや運営推進会議、面会時、行事の時等に家族の意見や要望を聞き、得られた意見から職員の顔写真と名前を掲示する等、運営やサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、施設全体会議を実地し職員の意見を吸い上げている。法人でも従業員満足度アンケートを年1回実地している、アンケート結果が悪い施設は再アンケートを実地した。業務改善提案書(直社長へ行く)がある	毎月実施する全体会議やフロア毎の会議で職員から意見や提案を聞いています。職員間で話し合い入浴の支援方法を統一したり、食事介助の際の人員の配置を変更する等、意見や提案を運営に反映しています。また年1回法人の従業員満足度調査のアンケートを実施したり、定期的個別面談や日々の中でも随時声をかけて面談を行い意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリア段位制度(介護技術・スキルの評価)誰のび人事制度、自己申告制度(異動希望など) 前向きな思考をもつコーチング研修、褒め合う社風を作る為のほめカードがある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が内部の研修を受ける機会を確保している。キャリア段位制度がある。		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規開設施設の職員が当施設へ研修にきたり、法人内で管理者の会議や研修、勉強会を実地している。介護職に対してもユニットリーダーの会議研修がある		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・計画作成担当者がアセスメントを行い、本人や家族が困っていることや、思い等を聴き取り、施設での出来る事出来ない事も踏まえ信頼関係構築に繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者・計画作成担当者がアセスメントを行い、本人や家族が困っていることや、思い等を聴き取り、施設での出来る事出来ない事も踏まえ信頼関係構築に繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の居宅や訪問介護、認知ディなどと連携をとり支援している。包括やオレンジチームと連携をとることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯などご利用者の出来ることは出来るだけして頂く様にしている。ご本人の出来る事(役割)を増やす様に話し合いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内外(遠足)での行事に参加して頂いたり、面会時に外出散歩をお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔行っていた場所や在宅で受けられていた訪問リハビリや訪問診療を継続している。ご家族より情報を頂いたり、ご本人より聞き出す努力をしています	友人や知人等の来訪の際には居室へ案内し椅子やお茶を出してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。職員と馴染みの商店街に買い物に出掛けたり、地域の行事に参加した際に知人との挨拶を交わしています。家族と自宅や墓参りに等に出掛ける際には薬や服装等の事前準備を支援しています。年賀状や手紙を書く支援する等、馴染みの関係が継続できるよう支援をしています。	

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士協力仕合ながら家事等手伝えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、ご夫婦での生活を始められたかたに、訪問や電話をしている。緊急時には小規模でのサービス提供を進めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の想いや暮らしに寄り添ったケアをしている。コミュニケーション困難な方にはご家族から情報をもらい支援している	入居時に自宅や施設等暮らしている所へ訪問し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、嗜好、思いや希望等を聞いたり、以前の施設やケアマネジャーからも情報を得ています。入居後は日々の中で思いや意向を聞き、困難な場合でも会議で職員間で本人本位に検討したり家族へも相談して情報をもらう等、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族から情報を頂き、これまでの生活歴・馴染みの生活を継続して行けるよう支援しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、体調に合わせて1日を過ごして頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各ユニットでカンファレンスを行いよりよく暮らす為に職員間で話し合っている。ご家族にも参加頂いたり、面会時に情報を頂いたりして計画書に反映させている	利用者や家族の思い、アセスメントを基に作成した介護計画は初回は3か月、以降は6か月毎の見直しを基本として見直し利用者の状態に変化があれば随時見直しています。モニタリングと評価は3か月毎に行い、見直しの際にはサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や看護師等の意見を反映し介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録を付け職員間で情報を共有しています		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談し自宅に帰ってもらったり、近鉄百貨店へ行ったり、月命日に仏花を買いに行ったりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に行ったり、近隣の花屋に仏花を買いに行ったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターと施設ナースが連携とり健康管理に努めている。馴染みのかかりつけ医を継続する事も出来る	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続か協力医への変更を選択してもらい、かかりつけ医に往診してもらい継続している利用者もいます。協力医は毎週来訪し利用者は月2回往診を受けています。看護職員が日々の健康管理を行い、緊急時は協力医へ24時間対応で連絡が可能な体制を整えています。専門医へは家族の対応が基本ですが急な時などは職員が同行しています。また、利用者の希望や状態に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療を受け、訪問マッサージも利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携しながら、日々の健康管理に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時に対応して頂ける病院を確保している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を伺い、重度化や終末期になった時、なりそうな時に話し合いを持っている	入居時に指針を基に利用者が重度化した際の事業所の方針を家族へ説明しています。利用者の状態が進んだ際には家族や医師、看護師とその都度話し合いながら意向を確認し体制を整え、家族の面会が増える等の協力を得て支援しています。また、職員は年1回看取り支援の研修を受け知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時の対応の研修を実地している		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回消防訓練を行っている。昨年の大阪北部地震、台風の被害は法人内であり、被害状況や対応を共有している	年2回それぞれ昼夜を想定し、内1回は消防署立ち会いの下、利用者も参加し通報や避難誘導、水消火器を使用した初期消火の訓練等を実施しています。地域の消防訓練に職員が参加し、地域で災害が発生した際には一時避難場所として地域の高齢者を受け入れることを運営推進会議で伝えています。地震や台風の法人内の体験を受けて、食料や水、ランタン等の備蓄を増やしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けはひとりひとり丁寧に行い、誇りやプライバシーに関わることは尊厳を大切に対応しています	事業所で人権や接遇、認知症等に関する研修を実施し職員は知識を身に付けています。敬語で優しさや親切さが利用者につながるような言葉かけを心掛け、不適切な言葉かけが見られた際にはその都度注意し、申し送りでも伝えています。入浴や排泄介助時は利用者の希望があれば同性介助を検討し対応できるようにし羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望の買物に行ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりそれぞれのペースにあわせて、希望や思いに沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服、入浴後に着る服など本人の希望を聞いたり、選んでもらったりしている化粧をしている方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を一緒にしたり(皮むき、盛り付け、米とぎ、洗い物、食器やお盆拭き、あじみ)、リクエストを聴いて献立を決める日を月2回も受けている	献立と食材は業者から届き、利用者には野菜の皮むきや盛り付け等出来る事に携わってもらいながら作り、職員も同じ物を一緒に食べています。月2回利用者が希望する献立を考え利用者と一緒に材料を買いに行き食事作りをしています。桜餅等のおやつを手作りしたり、寿司やピザの出前や居酒屋で忘年会を行う等、食を楽しめるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりにあった食事量・食事形態で栄養バランスが確保できるよう支援している		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をしています 定期的に訪問歯科にて口腔ケアをして頂いています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけトイレでの排泄ができる様支援しています	立位の取れる方は日中トイレでの排泄を基本として、個々の日々排泄の記録を取りパターンを把握し、利用者の状況に応じた声かけや介助を行っています。利用者個々に応じた排泄用品の種類や支援方法、排泄の状況は等は会議等で職員間で検討して共有することで排泄状況が維持できるような支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックをしたり、ヤクルト等の乳製品の提供をしたり、毎日ラジオ体操、棒体操、笑いヨガなど身体を動かす時間をつくり、便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	周2~3回入浴している。一番風呂の好きな方、身体状況での方が適している方など本人の好み・状態に合わせて入浴介助しています	入浴は週2~3回入れるように午前から夕方迄の時間帯に支援し、希望があれば回数を増やしたり時間を変更しています。拒否が見られた場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等工夫し無理なく入浴してもらっています。月初めに変わり湯として入浴剤を使用したり、好みのシャンプー等の持ち込みも可能で、入浴担当職員が2名体制で一人ずつゆっくり楽しんで入浴してもらるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見たり、ご利用者同士で話をしたりして過ごす時間の後、眠られたりする		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についての理解は浅いです。処方された薬をもれなく服用できるよう努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、調理や洗濯物や掃除や装飾品の作成等をして頂いています。 楽しみや気分転換の為に季節ごとの行事やレクリエーションを実地しています		

グループホームたのしい家帝塚山(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日少人数で散歩に出ています。ご家族の面会時に散歩等行って頂き戸外へ出る機会を確保しています	毎日散歩や買い物に少人数で出掛け、面会時に家族と一緒に散歩を楽しんでいる方もいます。季節毎に初詣や桜の花見、紅葉狩り等に出掛けたり、動物園や公園への外出行事の実施や他事業所の運動会に参加し楽しんでもらっています。家族も招いて飲食店で忘年会をする等、外出する機会を多く持てるよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で現金を持っていないと落ち着かない方は持っています。ご利用者の「おこずかい」としてお預かりしている現金があり、ご本人に必要なもの、希望があった時に使っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、手紙のやり取り等の支援をしています。年賀状や暑中見舞い等をご家族に出して頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生的でご利用者が不快な気持ちにならないよう環境整備に努めています。室内の臭いを取り除く装置をお試し使用です	フロアに行事の写真や習字、利用者と職員で作った貼り絵等の作品を飾り温かい雰囲気を作っています。テーブルや椅子は利用者同士の関係性を考慮して配置し、利用者の体感を聞きながら室温を調整し、加湿器を使用する等湿度保持にも配慮しています。カーテンの開閉などで採光にも気を配り、毎日換気や掃除を行い快適な共用空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内は自由に過ごして頂けるスペースです 居室では一人で過ごして頂けます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたタンスや好みの物を持ち込んで頂いてます 入居後はレクや行事で作成したものや写真等を飾っています。	入居時に家族へ使い慣れた馴染みの物を持って来てもらうよう伝え、筆筒や棚、鏡台等を持参しています。大切にしていた仏壇やミシン、好きな動物のぬいぐるみを置いたり、テレビやラジオ楽しむ方もおり、その人らしい居室となっています。希望があれば布団を敷いて休みこれまでの習慣に合わせることも可能です。毎日換気と清掃を実施して清潔保持に努め、加湿器を置いてもらうよう伝え加湿にも気を配り快適に過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の部屋に張り紙や目印を付けています		